

みおしえ学習会 【かしもの・かりもの ~心一つが我がのもの~】

問1) ()に入る言葉を下から選んで、文章を完成させましょう。

人間というものは、身は()、心一つが()。

たった一つの()より、どんな理も^{にちにち}日々出る。

どんな理も受け取る中に、()という理を聞き分け。

『天理教教典』第7章

【 ^{じゅうようじざい}自由自在 ・ かりもの ・ ^わ我がのもの ・ 心 】

問2) これまでに人から借りたもの、人に貸したものを思い出して書いてください。

借りた

貸した

問3) なぜこの身体は自分のものではなく、「かりもの」になっているのだと思いますか？

思いつくまま書いてください。

問4) 毎日の生活の中で「これこそ親神様のお働きだな、ありがたいな」と感じるのはどんな時ですか？

問5) 最近あなたがイラッとしたことは何ですか？それはどんな場面でしたか？

問6) なぜ親神様は、人間に心遣いの自由を与えてくださったのだと思いますか？

問7) 親神様はどういう思いから、身上に見せられるのだと思いますか？

これまでの経験をもとに思いつくままにお書きください。

問8) 親神様がお望みになる、陽気ぐらしとはどんな世界だと思いますか？

振り返り) 心に残った言葉や事柄は何でしたか、又、今後何を心掛けていきたいと思いますか？
